

刑法概説(八訂版)



監修	:	裁判所職員総合研修所
定価	:	本体 2,096 円＋税
判型	:	A5 判
ページ数	:	190 ページ(本文 174 ページ)
ISBN	:	978-4-906929-55-9
発行	:	平成 29 年 1 月

内容

平成 19 年に刊行した七訂版以降、9 年ぶりとなる今回の改訂では、平成 28 年 6 月から施行された「刑法等の一部を改正する法律」等による刑の一部執行猶予制度に対応した加筆や、近時の判例・学説を踏まえた修正が行われています。刑法の総論から各論にわたりコンパクトにまとめられており、これから刑法を学ぼうとされる方から、刑法について復習的に要点を押さえた方まで、幅広く活用いただける一冊です。

目次(抄)

序 説	第5 違法性の意識	第9章 社会的法益に対する罪
第1 刑法の意義, 沿革	第6 錯誤	第1 放火の罪
第2 刑法の性格	第7 過失	第2 通貨偽造の罪
第3 刑法の機能	第8 期待可能性	第3 文書偽造の罪
第4 罪形法定主義	第5章 未遂	第4 有価証券偽造の罪
第5 刑法の適用範囲	第1 意義	第5 支払用カード電磁的記録に関する罪
第6 刑法理論	第2 構造	第6 印章偽造の罪
第1編 犯罪	第3 着手未遂と終了未遂	第7 不正指令電磁的記録に関する罪
第1章 犯罪の成立要件	第4 中止未遂と障害未遂	第8 わいせつの罪
第1 犯罪の法律的意義	第5 未遂犯の処罰	第9 賭博及び富くじに関する罪
第2 犯罪の成立要件	第6章 共犯	第10章 国家的法益に対する罪
第3 処罰条件及び処罰阻却事由	第1 共犯の意義	第1 公務の執行を妨害する罪
第2章 構成要件	第2 共犯の本質	第2 逃走の罪
第1 構成要件の意義	第3 共同正犯	第3 犯人蔵匿及び証拠隠滅の罪
第2 構成要件の一般的内容	第4 教唆犯	第4 偽証の罪
第3 構成要件の諸形態	第5 幫助犯(従犯)	第5 汚職の罪
第4 構成要件に該当する行為(実行行為)	第6 共犯と身分	第2編 刑罰
第5 因果関係	第7 共犯と錯誤	第1章 刑罰の意義及び種類
第6 不能犯	第8 共犯と未遂	第1 刑罰の意義
第3章 違法性	第7章 罪数	第2 刑罰の種類
第1 違法性の意義, 本質	第1 犯罪の個数	第2章 刑罰の適用
第2 違法性阻却事由	第2 特殊な一罪	第1 法定刑, 処断刑, 宣告刑
第3 緊急行為	第3 科刑上一罪	第2 処断刑の決定
第4 正当行為	第4 併合罪	第3 宣告刑の決定
第4章 責任	第8章 個人的法益に対する罪	第3章 刑罰の執行
第1 責任の意義	第1 生命及び身体に対する罪	第1 執行猶予
第2 責任の本質	第2 自由及び安全に対する罪	第2 執行の軽減及び免除
第3 責任能力	第3 名誉及び信用に対する罪	第3 各種刑罰の執行
第4 故意	第4 財産に対する罪	第4章 刑罰権の消滅